

# 都市と音楽

## —— 長野県の音楽ホールの実態 ——

丸 山 勝  
Masaru Maruyama

### 1. 研究目的

このテーマを選んだ直接のきっかけは、昨年の京都国際音楽祭の一環として11月2日京都公会館で開催された「都市と音楽」というシンポジウムに参加したことである。

主催は京都市と朝日新聞社で整理券がでたほど盛会であったが、当日の会場で一番目についたことは、全国各自治体の職員の参加が極めて多かったことである。これは後でも述べるが現在全国各地において音楽ホール建設が一種のブームの中にあるという事実、現会館の耐用年数がきたこともあるかもしれないが現実にはあちこちにすばらしい音楽ホールが建設されている。戦後40年以上たってやっと文化（音楽）の方にも予算がまわってきたということであろうか。最近東京分割案や首都分離などの意見がでている中央集権化の問題で実際に公的機関を地方へ分散することがクローズアップされてきた。現政権の「ふるさと創生論」ではないけれどこれからは地方都市が力を発揮する時代になり、したがって地方文化が実を結ぶことになる。各地におけるイベントばやりや各地名産物の宅配便など地方が見直されてきた証拠であろう。東京の地価高騰など考えると真剣に取り組まざるをえなく、ブームなどといっていられない重要問題だ。これを機会に各地において特色ある文化を創造する意味で、その中心となるべきホール造りに地方のえい智を結集すべきである。そこで都市と音楽という問題に取り組んだわけであるが、テーマがあまりにも大きく、奥行きが深いのでどの程度まで追求できるか息の永い研究になりそうである。

今回は身近な長野県内の音楽の殿堂たる各地の会館を実態調査した。県内を4地域に分け、各地の会館の状態や特色、観客の現状など、またアンケートにより会館の現況や現場の声などを集めてみた。

## 2. 調査方法

61年版全国公立文化施設名簿等により長野県内の38会館へ調査用紙（別紙）を郵送配布した。

### (1) 調査会館

北信地方	11会館
	長野市 須坂市 中野市 飯山市 上山田町 小布施町
東信地方	8会館
	上田市 小諸市 佐久市 丸子町
中信地方	9会館
	松本市 塩尻市 大町市 穂高町 豊科町
南信地方	10会館
	飯田市 岡谷市 伊那市 諏訪市 茅野市 駒ヶ根市 辰野町

調査用紙は調査御協力の依頼状とともに切手を貼付し、宛名書きした返信用の大封筒を入れて11月30日に郵送した。わずか1ヶ月余りの期間であり督促もしなかったが、少数記入もれはあったにせよ返信は29通、回収率は76.3%であった。

### (2) 調査協力会館

北信地方	10会館	回収率90.9%
	長野市民会館 飯山市民会館 須坂市民会館 長野県勤労者福祉センター 篠ノ井市民会館 上山田文化会館 長野県民文化会館 NBSホール 小 布施町勤労青少年ホーム 東急シェルシェ	
東信地方	4会館	回収率50%
	上田市民会館 小諸市民会館 上田市文化会館 小諸市文化会館	
中信地方	8会館	回収率 88.9%
	あがたの森文化会館 松本市市民会館 塩尻市民会館 松本市中央公民館 松本社会文化会館 穂高町民会館 松本市音楽文化ホール 大町市文化会館	
南信地方	7会館	回収率 70%
	岡谷市民会館 伊那市民会館 飯田文化会館 飯田市公民館 諏訪市駅前市 民会館 駒ヶ根市文化会館 辰野町民会館	

### 3. 会館実態調査

#### (1) 会館建設年月日

大正8年 中信地区 A文化会館

表1-(1)

前 期
昭和34年4月 南信地区 A市民会館
昭和34年9月 中信地区 B市民会館
昭和36年4月 北信地区 A市民会館
※昭和36年6月 東信地区 A地区館
※昭和37年2月 東信地区 B地区館
※昭和37年7月 南信地区 B文化センター
昭和37年10月 北信地区 B市民会館
昭和37年11月 中信地区 C市民会館
昭和37年11月 北信地区 C市民会館
昭和38年6月 北信地区 D福祉センター
昭和38年7月 南信地区 C市民会館
昭和38年11月 東信地区 C市民会館
昭和39年11月 東信地区 D市民会館
昭和41年4月 中信地区 D公民館
昭和42年3月 北信地区 E市民会館
※昭和42年7月 中信地区 E福祉センター
※昭和42年11月 南信地区 D市民会館
※昭和44年10月 北信地区 F市民会館

表1-(2)

後 期
昭和47年4月 南信地区 E文化会館
昭和50年3月 中信地区 F文化会館
昭和51年10月 南信地区 F公民館
昭和54年7月 南信地区 G市民会館
※昭和55年2月 南信地区 H公民館
昭和55年3月 北信地区 G文化会館
昭和55年5月 中信地区 G町民会館
昭和57年10月 北信地区 H文化会館
昭和59年7月 東信地区 E文化会館
昭和59年12月 北信地区 Iホール
昭和60年2月 東信地区 F文化会館
昭和60年3月 中信地区 H文化ホール
※昭和61年1月 東信地区 G館
昭和61年3月 南信地区 I文化会館
昭和61年4月 北信地区 Jホーム
昭和61年5月 中信地区 I文化会館
昭和61年11月 北信地区 K館
昭和61年11月 南信地区 J町民会館
※昭和62年3月 東信地区 H館

#### 〈備考〉

調査比較する関係上調査票未回収会館も加えた。会館名は直接出さずアルファベットにて建設年代順に記す。 ※印は調査票未回収会館

表 1 - (3)

前期	後期
北信 6 館	北信 5 館
東信 4 館	東信 4 館
中信 4 館	中信 4 館
南信 4 館	南信 6 館
計18館	計19館

## (2) 会館職員数

表 2

	0 名～5 名	6 名～10 名	11 名～20 名	21 名～26 名	人数合計
北信	8	0	1	1	67 名
東信	3	1	0	0	18 名
中信	2	4	2	0	60 名
南信	4	2	1	0	41 名

〈備考〉会館単独のものと併設施設（公民館、体育館、勤労青少年ホーム、婦人の家、図書館、博物館、結婚式場、宿泊施設等）をもつ館も同一記入。0 名は催し物の時のみ外部依託。

## (3) 管理機関

表 3

教育委員会	13 館	企業（会社）	2 館
文化振興財団	3 館	広域行政事務組合	1 館
総務部	3 館	福祉事業団	1 館
観光、商工、経済課	3 館	ふるさと活動	1 館
市民課	2 館		

## (4) 客席数

表 4- (1) 大ホール

北 信	4	6099席	車イス22席	
東 信	2	2479席	車イス 6 席	身障者用 7 席
中 信	3	4166席	車イス 4 席	母子席
南 信	6	6972席	車イス14席	難聴者席20席

表 4- (2) 中ホール

北信	4	3756席	車イス 9 席
東信	5	3064席	車イス 8 席 難聴者席10 母子室
中信	4	2660席	車イス 9 席 難聴者席20 身障者用15席
南信	4	2566席	車イス 3 席

表 4- (3) 小ホール

北信	5	1874席	車イス12席
東信	1	300席	
中信	3	1010席	

表 4- (4) 全ホール

北信	11,729席 33.6%	車イス43席				43席 26.7%
東信	5,843席 16.7%	車イス14席	身障者用 7 席	難聴者席10席	母子1室	32席 19.9%
中信	7,836席 22.4%	車イス13席	身障者用15席	難聴者席20席	母子1室	49席 30.4%
南信	9,538席 27.3%	車イス17席		難聴者席20席		37席 23%
全県	34,946席	87席	22席	50席	2 室	161席

〈備考〉 調査比較のため調査票未回収館も加える (38会館41ホール)

## (5) 音響

反響板 「有」 19ホール 59.4% 「無」 13ホール 40.6%

残響時間1.6秒 (空席時) 以上のホール (最高2.0秒)

北信 3 東信 1 中信 3 南信 2

## (6) 会館使用状況（昭和62年1月1日～62年12月31日）

表 5

		県内の団体		県外の団体		国外の団体		合 計	
北 信	洋 楽	291回	46.2%	92回	54.8%	12回	32.4%	395回	47.3%
	邦 楽	40回	23.3%	5 回	19.2%			45回	22.7%
	計	331回	41.3%	97回	50 %	12回	32.4%	440回	42.6%
東 信	洋 楽	130回	20.6%	9 回	5.3%			139回	16.7%
	邦 楽	15回	8.7%					15回	7.6%
	計	145回	18.1%	9 回	4.6%			154回	14.9%
中 信	洋 楽	118回	18.7%	41回	24.4%	20回	54.1%	179回	21.4%
	邦 楽	65回	37.8%	20回	76.9%			85回	42.9%
	計	183回	22.8%	61回	31.5%	20回	54.1%	264回	25.6%
南 信	洋 楽	91回	14.5%	26回	15.5%	5 回	13.5%	122回	14.6%
	邦 楽	52回	30.2%	1 回	3.9%			53回	26.8%
	計	143回	17.8%	27回	13.9%	5 回	13.5%	175回	16.9%
全 県	洋 楽	630回	75.5%	168回	20.1%	37回	4.4%	835回	
	邦 楽	172回	86.9%	26回	13.1%			198回	
	計	802回	77.6%	194回	18.8%	37回	3.6%	1033回	

## 〈備考〉

- 中信地区B市民会館は62年1月1日～3月14日まで防災工事で休館
- 中信地区H文化ホールは62年5月25日～10月5日までパイプオルガン設置工事のため主ホール使用中止
- 南信地区J町民会館は開館が62年3月3日のため62年4月1日からの使用

## 4. 実態調査の考察

はじめに八十二文化財団が61年5月に実施した「郷土と文化」の県民調査を参考にしたい。これは県下59市町村から20才以上の県民を無作為抽出し標本数3,000サンプルというもので県民の文化活動のニーズと実態調査、教育観と展望等を目的としたものである。

表6 &lt;郷土と文化アンケート&gt;

問21 あなたは、文化活動をするとしたらどんな場所で行ないたいと思いますか。次のうちからもっともあてはまるものをひとつだけ選んで下さい。

		回 答 数	設な小 の・中 学・高 校・施 校	公セ公 共施タ 設ン館 ―・文 化	化図 施書 設館 など文	間施カ ルチ ン―セ ンタ ー民 セ	人芸 教ご 授と 所な ど個	施職 設場 ・会 社の	自宅	無そ の回 答他
全体(人) (%)		2034	90 4.4	1461 71.8	70 3.4	155 7.6	51 2.5	79 3.9	99 4.9	68 3.3
性 別	男	983 48.3	52 5.3	709 72.1	33 3.4	70 7.1	14 1.4	39 4.0	45 4.6	35 3.6
	女	1051 51.7	38 3.6	752 71.6	37 3.5	85 8.1	37 3.5	40 3.8	54 5.1	33 3.1
地 域	北信	606 29.8	25 4.1	416 68.6	28 4.6	53 8.7	20 3.3	25 4.1	34 5.6	18 3.0
	東信	390 19.2	21 5.4	279 71.5	8 2.1	38 9.7	7 1.8	15 3.8	16 4.1	12 3.1
	中信	500 24.6	23 4.6	364 72.8	14 2.8	31 6.2	11 2.2	20 4.0	23 4.6	20 4.0
	南信	538 26.5	21 3.9	402 74.7	20 3.7	33 6.1	13 2.4	19 3.5	26 4.8	18 3.3

表6でみると公民館・文化センターなど公共施設が71.8%と群をぬいている。2位は最近流行のカルチャーセンターなど民間施設となっているが、やはり経費がかかり無料ないしは少ない費用の公共施設の利用は理解できる。しかし全般的に民間に比べ使用規則が厳しく、申込期間においても半数ちかくのホールが1年前から受付けているのに使用率の高いホールにおいては競合し、調整しなくてはならないこともある。

特に日常の練習において、音を出す音楽関係の団体にとって練習場の確保は頭の痛い問題だ。それは発表の場であるホールの確保以上に深刻で、決まった練習場をもたないジプシー団体が各地に沢山存在する。公共施設で専用の練習場とはいわなくとも、定例として確保できるようなシステムに全部もっていくべきで、地元の音楽を育てていくには重要な課題である。

表7 &lt;郷土と文化アンケート&gt;

問18 あなたは、文化活動をするのにどんなことが障害になると思いますか。次のうちからもっともあてはまるものをひとつだけ選んで下さい。

		回 答 総 数	時 間 が な い	す 費 用 が か か り	な 施 設 が 十 分 に	仲 間 が い な い	す 文 化 情 報 活 動 に 関 心 が な い	い よ い 指 導 者 が な い	無 回 答 そ の 他
全体(人) (%)		2034	1020 50.1	153 7.5	330 16.2	134 6.6	256 12.6	185 9.1	162 8.0
性 別	男	983 48.3	495 50.4	57 5.8	170 17.3	56 5.7	131 13.3	99 10.1	61 6.2
	女	1051 51.7	525 50.0	96 9.1	160 15.2	78 7.4	125 11.9	86 8.2	101 9.6
地 域	北信	606 29.8	301 49.7	59 9.7	85 14.0	35 5.8	75 12.4	63 10.4	46 7.6
	東信	390 19.2	195 50.0	26 6.7	69 17.7	21 5.4	49 12.6	40 10.3	35 9.0
	中信	500 24.6	238 47.6	26 5.2	94 18.8	38 7.6	70 14.0	42 8.4	38 7.6
	南信	538 26.5	286 53.2	42 7.8	82 15.2	40 7.4	62 11.5	40 7.4	43 8.0

しかし公共施設を希望してもなかなか充足できない、表7をみると「時間がない」が第1位であるが、「施設が十分でない」がそれについている。地域別にみると中信18.8%、東信17.7%と多く回答されており、施設の充実度がそれに反映されているといえることができる。表6・表7より県民の公的施設に対する関心度がよくわかる。

#### (1) 会館建設年度

全国公立文化施設名簿と今回の調査票とに多少のずれのある館もあるが、大正8年の中信地区A文化会館を除いて比較してみると建設年代を前期、後期に区分することができる。(表1-(1)、(2))

前期は34年～44年の10年間、後期は47年～62年の15年間となっている。そして館数は前期18館、後期19館、また地域別にみても大体似かよっている。(表1-(3))

前期は市民会館といわれるものが多数を占め、戦後の食糧難の時代を克服して文化にも目を向けだし大衆文化、市民文化の時代ともいえる。私事ではあるが40年から43年まで東京のプロ合唱団に所属し、全国各地を歌って歩いたが、この県内の市民会館にも懐かしさ以上のものを感じる。床はコンクリートで靴や下駄の足音がカランカランと響く、大概の演奏会は



ステージと客席が一体化し聴衆の熱気は今の音楽会では比較にならないほどであった。それだけ大衆は音楽に飢えていたし、また心の安らぎを求めにきていたとおもう。そして列島改造の風が日本中を吹き荒れ、高度経済成長がつづき、何回かのオイルショックにも立ち直って安定期の後期に入ると文化会館と称するものができてくる。多目的ホールとしては世界的な東京上野の東京文化会館は36年に建設されているが、地方ではちょうど10年後ということになる。設備のよく整った、光溢れるばかりの明るさに掃除のゆきとどいたじゅうたん張りの床、聴衆は実によく音楽を知っており、上手に選択して聴いている。特に最近建設される会館は予算を十分使って緻密で豪華な設計のもとにすばらしいものができているし、特色あるホールもあちこちにできてきた。参考に県内のこれからの建設予定を調べたところ伊那県的文化施設 大ホール1595席小ホール400席が本年11月完成予定、下諏訪文化センター 大ホール700席小ホール300席も本年10月完成予定、岡谷市オペラハウスの大ホール1460席小ホール350席は64年7月完成予定、木曾日義村 大ホール716席も64年完成予定、また松本にも67年完成予定の県的文化施設が予定されている。

#### (2) 会館職員数

単独ホールのものと併設施設をもつ会館の職員数を比較するすべもないが、すばらしい会館というものは建物というハード面とそれを管理・運営する職員のソフト面がうまくプラスされたものとおもう、即ち人間次第ということになる。また専門技術という面でも職員の研修、専門技術者の派遣依頼などの工夫がなされ以前に比べて大分レベルアップしており、昨年舞台関係の人たちの横のつながり「長野県舞台技術者協会」が発会したという。市の一般職員をたらい回しにしているようなことは無くなってきているようであるが、片寄ったものの見方をせず公平なる眼識をもった幅の広い人間が必要とされる。中信地区のH文化ホールはパイプオルガンの設置により専門のオルガニストを採用した。これからは音楽ホールを目指すならば音大出身の専門家を一人位採用するようにしたいものである。また教育委員会の社会教育課にもそのような人が欲しい。専属でも嘱託でもよいから各ホールが専門の演奏家をもつということも考えられる。いろいろなアドバイスを受けて彼らを中心にした音楽会をもち地元の音楽を育てることもできる。

#### (3) 管理機関

教育委員会が大多数を占めるが、建設の経緯などにより異なっている。要は市民が楽しく使い易いように市民サイドで考えて欲しいわけで、新しい傾向は文化振興財団を設け独立採算制をとるようになってきたことである。また友の会形式を採り観客人員の獲得と運営を目指しているところもある。

#### (4) 客席数

車イス席、身障者用席、難聴者用ヘッドホン席は近年建設の会館に大部分設置されているが、特筆すべきは母子席が2館あることである。音楽会で一番気になるのは幼児の泣き声な

どであるが、一緒に連れて来ないのを常識としたいけれど、どうしても連れて来る場合他に迷惑のかからない独立した母子室があることはすばらしい。これからのホールには是非備えてもらいたいものだ。また保育室を設けて子供を預かるということも考えられることだ。

ピアノ発表会などに使い易い小ホールも各地に欲しい。

#### (5) 音 響

音楽ホールにとって「響き」は最重点問題になるが、県内のホールは大部分が多目的ホールのためコンサートには反響板を使用し音の拡散を防ぐ。しかし、コンサート専用ホールも2館ばかりで、ホール全体が残響を考えた設計になっている。

一昨年東京にはじめてのコンサートホールであるサントリーホールが開館した。その落成記念演奏会、サヴァリッシュ指揮のNHK交響楽団ベートーベン第九の合唱を歌う機会に恵まれたのであるが、実にすばらしいホールであった。残響は中音域で満席時2.1秒、床や壁などは木材をフルに使用し「響きの質」として ①余裕のある豊かな響き ②重厚な低音に支えられた安定感のある響き ③明瞭さ繊細さを兼ね備えた響き ④空間的な拡がりのある響きの4点を目標としている。中信地区のH文化ホールはこのサントリーホールと同一の音響設計者であるが、その目標は ①音量が十分得られていること ②豊かな響きがあること ③音源を近くに感ずること ④低音域の響きがしっかりしていること ⑤各楽器のバランスが良いこと ⑥音に包まれた感じであることであるが、このホールに出演した内外の演奏家から絶賛されているという。また最近一番新しく開館した東信のHホールはサントリーホールのミニ版というところで木のぬくもりがいたるところに溢れ、音は暖かみのある素直な響きとなっている。

#### (6) 会館使用状況

会館使用の中で音楽会の比率をみたかったが映画、演劇等の鑑賞、その他の記入もれが大分あったので今回は音楽会だけにとどめた。また年度途中休館したものが2館、途中新設館が1館できたのであくまで参考資料としたい。4地区の全県に対するそれぞれの割合をみた。

中信地区のH文化ホールはパイプオルガン設置工事終了後の11、12月の使用をみると11月休館5日、空き館3日、稼働22日、12月休館9日、稼働22日と1日の空き日もなかった。オルガン設置以後12回におよぶ記念演奏会は常に満席で、立ち見が100名以上もあった演奏会があり、合計9200名がこのオルガンの音色を味わったという。

また北信のH文化会館の使用も激しく7月の中ホールをみると休館日7日、空き1日、稼働23日となっている、8月は大ホール、中ホール同じで休館日9日、空き4日、稼働18日である。これほどではないが東信のE文化会館、南信のI文化会館も稼働率がよい。因みに東京では土曜、日曜日の音楽会は別にして年間を通じて1日平均8回の演奏会がもたれ、その中250回が外来の演奏家による音楽会だという。

## 5. アンケート —結果と考察—

### 〈1〉音楽ホールとしての機能について

〈ア〉 良いとおもう			〈イ〉 普通とおもう			〈ウ〉 悪いとおもう		
北信	3	30%	北信	5	50%	北信	2	20%
東信	3	75%	東信	0	0%	東信	1	25%
中信	3	37.5%	中信	2	25%	中信	3	37.5%
南信	4	57.1%	南信	1	14.3%	南信	2	28.6%
全県	13	44.8%	全県	8	27.6%	全県	8	27.6%

「良いとおもう」が半数ちかくを占めている。大部分が後期に建設された会館であり、文化会館という名称のもの7館、市民会館3館、文化ホール、町民会館、ホームであるが会館実態調査で残響時間を書いてないものが4館あった。「普通とおもう」「悪いとおもう」は同数で「悪いとおもう」は6館が前期に建設されたもので、その中5館が市民会館である。

### 〈2〉環境（場所）について

〈ア〉 住宅地内にある			〈イ〉 商業地内にある			〈ウ〉 その他		
北信	4	40%	北信	5	50%	北信	1	10%
東信	0	0%	東信	2	50%	東信	2	50%
中信	4	50%	中信	1	12.5%	中信	2	25%
南信	4	57.1%	南信	3	42.9%	南信	0	0%
全県	12	41.4%	全県	11	37.9%	全県	5	17.2%

住宅地内が1位であるが、商業地内も割合に多かった。これは交通の便とも関係しているとおもう。工業地内は全くなく、その他の北信、東信の3館はともに公園内、中信2館は市街地からはずれた田園地帯、音楽はやはり良い環境のもとで聴くべきものだろうし建設する側はその点を第1に考慮しなければならないとおもう。またサントリーホールを例にだすが、そこは東京赤坂の谷の一面を区画整理しパークヒルズという名のもとに街をつくりあげた。その中にはテレビ会社があり大きなホテルもある、アフターコンサートを静かにすごせるバーやレストラン、子供を預けるベビーシッター、また入館するとききれいなお嬢さんたちが「いらっしゃいませ。」と迎えてくれる。今までにはない形態の音楽ホールである。民間だからといえばそれまでであるが、それだけクラシック音楽は環境を大切にせねばならないということだ。

背中がゾクゾクするような感激を味わって、その余韻をいつまでも残しておこうとするのが音楽ファンというものなのだから。

### 〈3〉交通の便について

〔1〕交通の便（バス、電車等の交通機関）は良い方ですか

〈ア〉 良い方とおもう			〈イ〉 普通とおもう			〈ウ〉 悪いとおもう		
北信	7	70%	北信	2	20%	北信	1	10%
東信	0	0%	東信	3	75%	東信	1	25%
中信	5	62.5%	中信	3	37.5%	中信	0	0%
南信	6	85.7%	南信	1	14.3%	南信	0	0%
全県	18	62.1%	全県	9	31%	全県	2	6.9%

〔2〕駐車場の有無

〈有〉			〈無〉		
北信	10	100%	北信	0	0%
東信	4	100%	東信	0	0%
中信	7	87.5%	中信	1	12.5%
南信	6	85.7%	南信	1	14.3%
全県	27	93.1%	全県	2	6.9%

〔3〕駐車場の収容台数

表 8

	10台～50台	60台～100台	120台～200台	250台～500台	600台以上	合計台数
北信	3	3	1	2	1	1835台
東信	0	2	2	0	0	480台
中信	1	3	1	2	0	1320台
南信	0	0	4	2	0	1185台

〔4〕駐車場「有」の場合現収容台数で十分ですか

〈ア〉 十分とおもう			〈イ〉 不足しているとおもう		
北信	1	10%	北信	9	90%
東信	0	0%	東信	4	100%
中信	3	42.9%	中信	4	57.1%
南信	2	33.3%	南信	4	66.7%
全県	6	22.2%	全県	21	77.8%

表9 〈郷土と文化アンケート〉

問23 あなたは、文化活動をする時、施設を選ぶとしたら次のどの条件を重視しますか。  
次のうちからもっともあてはまるものをひとつだけ選んで下さい。

		回 答 総 数	交 通 所 が 便 利	て 設 備 が 充 実 し	ご 利 用 料 金 が て	由 利 用 時 間 が 自	続 利 用 が 規 則 や 手	ら談ダ専 れ・！門家、 指が導い 導いがてり 得相！	無そ 回の 答他
全体(人) (%)		2034 100.0	982 48.3	332 16.3	65 3.2	190 9.3	80 3.9	305 15.0	80 3.9
性 別	男	983 48.3	377 38.4	227 23.1	27 2.7	104 10.6	47 4.8	168 17.1	33 3.4
	女	1051 51.7	605 57.6	105 10.0	38 3.6	86 8.2	33 3.1	137 13.0	47 4.5

表9の八十二文化財団の調査でもわかるとおり約半数の人が施設を選ぶとしたら交通の便が良いことをあげている。車社会とはいえ全員が車で会場へ行くわけにはいかないのであるから交通手段を考えなければいけないとおもう。交通の便が「悪いとおもう」と答えたのが2館だけなのには驚いた。我々は都会と比較してつい不便のように感じてしまうが、こちらに住めばこれが普通とおもってしまうのだろうか。過日松本のある音楽会で不定期のバスを走らせようと試みて成功したというが、NHKでも定期演奏会の時など渋谷のホールから新橋駅まで不定期のバスを走らせているという。これからは土地高騰の折、中心街には大きなものは無理であるから当然郊外へ建設ということになる、すると必然的に駐車場問題、交通問題がクローズアップしてくる。駐車場の有無で「無」と答えたのは中・南信に2館あった。この館は交通の便では「良い方とおもう」と「普通とおもう」に答えている。建設の時の事情もあっただろうし中心街で交通の便も良いということだろう。収容台数であるが(表8)北信のある館は10台と答えている。交通の便は「良い方とおもう」と答えているが概して建設年度の古い館は収容台数が少ない。これは今のような車社会は当時としては予想できなかったことだろう。現収容台数で「十分とおもう」館は6館あり、その収容台数は800台、500台、350台(2)、200台、165台と答えている。しかし280台、250台でも「不足しているとおもう」と答えているのは、ホールの大小にも関係している。800台というのは館が収容されているデパート全体の駐車場をいっているものとおもわれる。「不足しているとおもう」が全体の80%ちかいという現象は音楽ホールに限られたことではなく全ての公的施設で耳の痛いくらい言われていることだ。

#### ＜４＞ 会館の使用状況

＜ア＞ 十分に使用されたとおもう			＜イ＞ まあまあ（普通）の使用とおもう		
北信	3	30%	北信	4	40%
東信	0	0%	東信	4	100%
中信	1	12.5%	中信	7	87.5%
南信	2	33.3%	南信	2	33.3%
全県	6	21.4%	全県	17	60.7%
＜ウ＞ 使用は少なかったとおもう					
北信	3	30%			
東信	0	0%			
中信	0	0%			
南信	2	33.3%			
全県	5	17.9%			

「十分に使用されたとおもう」6館、「使用は少なかったとおもう」5館と大体似た数である。そこで「十分に使用されたとおもう」と答えた館は音楽会に十分使用されたのであろうか、実態調査の会館使用状況をみてみる。（表10）

表10

	音楽会	映画演劇等の鑑賞	その他	合 計
北信E市民会館	18回	14回	26回	58回
北信Jホーム	8回	12回	15回	35回
北信K館	9回	—	36回	45回
中信H文化ホール	94回	14回	1回	109
南信I文化会館	25回	46回	31回	102

＜備考＞ 南信F公民館は無回答

中信H文化ホールは主ホールが4ヶ月以上休館していたが音楽会は他に比べて極めて多い。K館のその他36回は展覧会、I文化会館は映画会が非常に多かった。「まあまあの使用とおもう」と答えた北信のH文化会館は大・中・小ホール合わせて音楽会に162回使用されている。「使用は少なかったとおもう」は1館を除いて4館とも前期建設の市民会館である。ここからも建設年度の新しい館に使用が集中されていることがわかる。

### 〈5〉 もっと使用して欲しい部門

〈ア〉 音楽会（洋楽）			〈イ〉 音楽会（吟道を含む邦楽）		
北信	4	33.3%	北信	3	25%
東信	0	0%	東信	0	0%
中信	2	25%	中信	1	12.5%
南信	2	40%	南信	0	0%
全県	8	28.6%	全県	4	14.3%
〈ウ〉 映画、演劇等の鑑賞			〈エ〉 諸会議		
北信	4	33.3%	北信	1	8.3%
東信	3	100%	東信	0	0%
中信	1	12.5%	中信	4	50%
南信	2	40%	南信	1	20%
全県	10	35.7%	全県	6	21.4%

無回答が3館、1館で大・中・小ホール3つの回答があった。

音楽会を期待したのであるが、それぞれに分かれ、中でも「映画、演劇等の鑑賞」が一番多かった。前問で「十分に使用されたとおもう」と答えた6館はH文化ホールとI文化会館が「音楽会（洋楽）」、E市民会館とK館が「映画演劇等の鑑賞」Jホームが「音楽（邦楽）」、F公民館は無回答であった。「使用は少なかったとおもう」と答えた5館は北信のA市民会館とB市民会館が「音楽会（洋楽）」、C市民会館は「音楽会（邦楽）」、南信のA市民会館は「諸会議」、G市民会館は無回答であった。

### 〈6〉 会館主催による音楽会の有無

〈有〉 北信 4 40%			〈無〉 北信 6 60%		
東信	1	25%	東信	3	75%
中信	3	37.5%	中信	5	62.5%
南信	2	28.6%	南信	5	71.4%
全県	10	34.5%	全県	19	65.5%

## 〔1〕会館主催音楽会の回数

表11

	1回～6回	15回～25回	合計回数
北 信	2	1	26回
東 信	1	0	5回
中 信	2	1	29回
南 信	2	0	11回

〈備考〉 1館回数記入なし

「無」が「有」を大きく上まわった。「有」の中、回数は少ないところで1回、多いところでは19回、22回とあった。最近できた新しい館はこの自主企画のものに大分力を入れるようになり、以前のような貸し館だけという型から脱却している。ただそれには会館職員の負担が大きくなるため、能力のある精力的な職員の適正配置が必要になってくる。地域文化を発展させていくためにはこのような人たちが是非縁の下の力もちに徹して欲しいとおもう。

## 〈7〉助成団体の数と方法

## (1) 登録制をとるもの

## ○南信 I 文化会館

文化団体としての登録により（現11団体）次の特典が与えられる

1. 文化会館併設の集会施設（勤労青少年ホーム、働く婦人の家）が無料で使用できる
2. 文化会館のリハーサル室、練習室が無料で使用できる
3. 文化会館のホールが50%減免される

## ○中信 A 文化会館、D 公民館、H 文化ホール

音楽文化団体は教育委員会に登録することにより会場使用料が減免となる

## ○南信 F 公民館

社会教育関係団体が助成団体となる

## (2) 定期的使用団体とするもの

## ○北信 C 市民会館

市内小・中学校卒業学年親善音楽会      市内小・中学校音楽鑑賞  
 母親コーラス祭り      芸能発表会      吹奏楽の夕べ      市民音楽祭  
 以上は使用料無料

## ○中信 F 文化会館

助成団体として      市内小学校卒業音楽会



## (3) その他のもの

## ○ 中信 C 市民会館

補助金の交付 1 団体

## ○ 南信 J 町民会館

事業費補助 2 団体

## ○ 南信 E 文化会館

会館施設使用料の減免 1 団体

## ○ 北信 G 文化会館

楽器購入 1 団体

## ○ 北信 H 文化会館

助成団体（音楽）

1、県内の芸術文化団体

2、県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、ろう学校及び養護学校

3、県内の社会福祉団体

以上の各号に該当し、規定に適合するものに限り使用料の減免 $\frac{30}{100}$ をすることができる。

## 6. まとめ

音楽を演奏する立場、聴衆としての立場また音楽会を主催する立場などいろいろな面から音楽ホールと接してきて、今回この調査をして一番感ずることは、ホールは我々と同じような生き物であるということである。そして最初に我々使用者がそこへ命を吹き込む使命があるといえるし、ガランとしたコンクリートの器だけで終わらせるかどうかは我々の責任といえるだろう。演奏する立場からすれば響きの良いホールほど気持ちの良いものはない。余分な神経は使わなくてすみ心地よく楽しくできる。また演奏家にとって舞台は命である。二時間ばかりのステージに全精力を注ぎ、そこにドラマが生まれてくる。そしてそれぞれのホールに思い出があり、涙があり、そして笑いがある。聴衆の立場からも同じで、そのようなドラマチックで真剣な演奏を聴きもらすまいと努める、その時に障害になるようなものはなくしていかなければならない。過去のことになるが、確か岩城宏之さんの指揮で北陸の音楽会の時だった、演奏中に全く突然赤チャンが泣きだして泣きやまなかった、そこで彼は棒を止めて丁寧な言葉で外へ出てもらい歌いつづけた。あれから20年以上もたっているが、いまだ我々の囲りで同じことがくりかえされている。都会の音楽会ではこのようなことはめったにない、田舎だからといって許されることではないのであるが、一刻も早くなくすようお互いに努めたいもので、それが文化の向上につながるのではないだろうか。次にホールに生命の息吹を与えるべく中味の問題である。またサントリーホールのことを出しておかしいが、指揮者の

小沢征爾さんがサントリーの社長の佐治敏三さんと会った時の話で小沢さんは佐治さんに「サントリーは非常に巨額のお金を使って（ヨーロッパのある小国の1年間の国家予算額）立派なコンサートホールを造ったのは大変なものですし立派なことです。世界的にも立派なホールだと思いますが、問題はコンサートホールという建物ではなくて、そこで何をやってくれるのか、もしあなたがなくなったあと本当にこの会社はこのホールをきちんと運営していくんですか、そのことの約束、保証はどうやってなされるのですか」と念を押したそうである。我々日本人はとかく外観にばかり目を奪われがちで、中味の問題を二の次に考える習性があるようだが、「都市と音楽」のシンポジウムでも出た話であるが、美術館建設ラッシュの時のように入れ物だけを造って中味が伴わないという轍を二度と踏むまいという決意は生かされているのかどうかということは疑問である。そして建設するからにはできるだけ多くの人の意見、特に舞台現場の人の経験的知識にも十分耳を貸し、利用する立場の人も含めた十分な検討が必要と思うのである。これもシンポジウムの時の話であるが、東京近くのある県の調査をしたら文化会館というものが72あったそうで、それがみんな同じような規模の似たものだったそうである。いくら物真似好きの日本人でもこうなってくると頭を疑いたくなる。それも文化ということばを日常茶飯事使っている現場においてである。ここでアンケートの最後をお願いした〔9〕で南信のJ町民会館の意見を記すと「近年、近隣自治体に文化会館等が建設され、催物等に競合する部分も生じ、興業的なものは収容能力の高いものに移る等を考えれば、会館の特性、特色を生かした方向を見出し、単に貸し館に終ることなく、自主事業の企画運営をしていくことは今後不可決のものと思われます」。全く同感でその通りだとおもう。このことはみんな気がついていることとおもうが、さて実行となるとそこには諸問題が生じ、なににもまして精力的な努力が必要となる。行政側のリーダーシップも必要であろうが、一番大切なことは市民ひとりひとりの意識の問題である。市民のもりあがりがあれば昨年の京都音楽祭のように市をあげてのイベントができ、全国から人が集まってくる。その他、津山市のマラー音楽祭、三木市の童謡祭、井原市での子守唄、藤沢市のオペラなど数えれば沢山あげられる。特に藤沢市の場合は、43年に藤沢市民会館がオープンし自主文化事業を積極的に実施してきた。藤沢市民交響楽団をはじめ、アマチュア音楽グループが13ヶ所の公民館を中心に活動し「文化は自分たちの手で育てる」をモットーにオペラ上演に積極的に参加してきた。市民参加のオペラ公演は

昭和48年	モーツァルト	「フィガロの結婚」
昭和50年	ロッシーニ	「セヴィリヤの理髪師」
昭和52年	J・シュトラウス	「こうもり」
昭和53年	三枝成章	「竜恋譜」
昭和54年	団伊玖磨	「夕鶴」
昭和55年	ビゼー	「カルメン」

昭和57年	プッチーニ	「蝶々夫人」
昭和58年	ロッシーニ	「ウィリアム・テル」日本初演
昭和59年	フンパーディング	「ヘンゼルとグレーテル」
昭和60年	ヴェルディ	「アイーダ」

そしてこの実績に対し藤沢市民会館は61年10月音楽之友社賞を受賞したのである。受賞理由は「昭和60年11月、4回にわたる「アイーダ」公演の成果、および永年にわたる市民参加の手作りオペラ運動に対して」となっている。芥川賞受賞作家の宮原昭夫氏は『カーテンコールをもう一度』の中で「藤沢の市民音楽文化活動は、船や船具の手配をする者と、力強い漕ぎ手たちがそろったうえで、目的地と航路を見きわめる経験と力量豊かな水先案内人に乗れ込んでもらえた市民船「オペラ丸」の幸福な航海と言ってもいいだろう」これでもわかるとおり船を手配した市長はじめ市役所の職員、力強い漕ぎ手の市民たち、また経験豊かな水先案内人である指揮者の福永陽一郎氏、三者一体になっての凱旋といえる。このように音楽を通しての特長ある都市造りを市民と市民会館が一緒になって行っているのである。

最近各地で国際都市ということをよくきくが、「わが市も国際都市を目指して」ときこえはいいが、世界都市と国際都市を混同してはいないだろうか、私たちが音楽を通して求めるのは世界都市なのである。あの残酷な忌まわしい戦争からも生き残った都市、ヨーロッパではワーグナーのバイロイト、日本では大原美術館のある倉敷市、古都京都もそうである。芸術、文化が、音楽が都市を救ったのだ。その世界都市京都での音楽祭であるが少々説明を加えると、歴史都市「京都」が昨年11月に開催した世界歴史都市会議のオープニングイベントとして催したもので、とてもユニークなものであった。10月31日のパリ、ギャルド吹奏楽団演奏会をトップに11月4日のアルバン・ベルグ弦楽四重奏団まで16の催しものを地元演奏家を加えた内外の演奏家が京都市内の各会場に分かれ、5日間にわたって行ったものである。ユニークなものでは酒蔵コンサート。バッハファミリーとアマデウス・モーツァルトの夕べと称し会場が伏見の月桂冠・大倉記念館においてコウジの香りの中での器楽アンサンブル。また屋外では京都フィルハーモニー室内合奏団が、オペラと落語を組み合わせたオリジナル曲「おべらんご・不精猫」を左京区の白沙村荘庭園にて演ずるというように、実にバラエティーに富んだ企画であった。そしてこれらの運営は合唱、吹奏楽関係者、それと市当局が中心となり芸術大学関係者、プロの音楽家、関係団体が支えるという京都の音楽人が大きな環をつくってのことである。音楽祭というと最近日本国内、諸外国を問わずその数は極めて多くなっているが、それぞれ個性的なものがある。いわゆる大家巨匠をならべ、大きな出し物が注目を集める総合的音楽祭、研修的色合いを加えたもの、オペラやある種の楽器にまとをしほったものなどさまざまだ。このようにいろいろな音楽祭がその都市を活性化させ、市民生活を充実させている事実は注目に値することで、その意味で「都市と音楽」というシンポジウムになったとおもうわけである。

藤沢市や京都市のようないき方は全国各地でつづく動きであるとおもうが、これらは長い時間をかけて試行錯誤のうえ、大勢の協力のもとにできたものでそう簡単にできることではない。県内にもその芽生えはあちこちにみられるが藤沢市のように船が無事に大海に出られるかどうか、それは各人の責務を完全に果たし、三者一体になれた時であろう。

今回の調査をみて各地に立派なホールができてきており、その下地は整ったとみるべきで、これからを注目していきたいとおもう。

1988年1月31日稿

## 7. 依頼状

### 会館調査・アンケートのお願い

あちこちから雪の便りがとどき、いよいよ冬本番の候となりましたが、みなさまがたにはますますご健勝のこととおよろこび申し上げます。

さて、ただいま私どもは「都市と音楽」というテーマのもとに研究をすすめていくことになりました。あまりにも大きな漠然としてテーマですが、過日このテーマにより京都市でシンポジウムがあり、参加しましたところ多数のみなさんが大きな関心をおもちでした。とくに各自治体におかれましては一種のブームのように音楽会館建設に大変意欲をもっておられるようでした。しかし美術館ラッシュのときもそうでありましたが、ハード面が先行しソフト面がなかなかおいつけないというのが現状だったとおもいます。この轍を踏まないためにも微力ながらこの問題にとりくんで考えていこうとおもったしだいです。

年末でなにかとご多用中とは存じますが、この趣旨をご理解いただきましてこの調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

尚、この調査によって貴館にご迷惑をおかけすることは絶対ございませんのでありのままのお答えをいただきたくここにお願い申しあげるしだいです。

昭和62年12月

〒399-65 松本市笹賀3118

松本短期大学 Tel 0263-58-4417

音楽研究室 丸山 勝

※ 誠に恐縮ですがご回答は1月5日までにご投函願います。

## 会館実態調査

- |           |    | 県内の団体 | 県外の団体 | 国外の団体 |
|-----------|----|-------|-------|-------|
| 音楽会       | 洋楽 | 回     | 回     | 回     |
|           | 邦楽 | 回     | 回     | 回     |
| 映画、演劇等の鑑賞 |    | 回     | 回     | 回     |
| その他       |    | 回     | 回     | 回     |

〔多数の場合本年度会館プログラムをそえていただければ結構です〕

## 9. アンケート用紙

## アンケート

記入日

〔回答上の御注意〕

昭和62年 月 日

お答え願う場合はもっともと思われるものに○印でお答えください

記入日もお願いいたします

## 1、貴館の会館が音楽ホールとした場合の機能についておききします

〔ア〕 良いとおもう

〔イ〕 普通とおもう

〔ウ〕 悪いとおもう

## 2、貴館の環境（場所）についておききします

〔ア〕 住宅地内にある

〔イ〕 商業地内にある

〔ウ〕 工業地内にある

〔エ〕 その他

## 3、貴館の交通の便についておききします

〔1〕 交通の便（バス、電車等の交通機関）は良い方ですか

〔ア〕 良い方とおもう

〔イ〕 普通とおもう

〔ウ〕 悪いとおもう

〔2〕 貴館所有の駐車場の有無 有 無

〔3〕 駐車場 有 の場合収容台数 〔 台〕

〔4〕 駐車場 有 の場合現収容台数で十分とおもいますか

〔ア〕 十分とおもう 〔イ〕 不足しているとおもう

## 4、貴館の本年1年間の使用状況からみてお答えください

〔ア〕 十分に使用されたとおもう

〔イ〕 まあまあ（普通）の使用とおもう

〔ウ〕 使用は少なかったとおもう

5、貴館の本年1年間の使用状況からみてもっと使用して欲しいとおもわれる部門を1つお選びください

〔ア〕 音楽会（洋楽）

〔ウ〕 映画、演劇等の鑑賞

〔イ〕 音楽会（吟道を含む邦楽）

〔エ〕 諸会議

6、本年度貴館主催による音楽会はありましたか

有 無

〔1〕 有 の場合その回数は何回ですか

\_\_\_\_\_回

7、教育委員会の管轄になるとおもいますが、助成団体（音楽）がありましたらその数と助成の方法をお書きください

\_\_\_\_\_団体

方法

8、貴会館の案内（パンフレット）がいただけましたら同封をお願いいたします

9、その他、貴館の特色、お考えなどありましたらご自由にお書きください

## 参考資料

文化講演レポート 萩元晴彦

コンサートホールで考えたこと

長野県の郷土と文化

音楽の友 1986年12月号

舞台雑誌 おふ・すてーじ 第2号・1987

ホール情報紙 おん・すてえじ

八十二文化財団

八十二文化財団

音楽之友社

金子好典

長野舞台